

人工林の恒続林誘導における更新木のニホンジカ食害防止調査 -混交林誘導のための広葉樹林におけるシカ食害リスク評価- (R4~9)

青山祐輔・若山 学

1. はじめに

奈良県では、森林環境の維持向上のために、混交林誘導整備事業により人工林の恒続林化（スギ・ヒノキの針葉樹林から広葉樹も育つ混交林へ）を進めている。しかし、恒続林化にあたっては、ニホンジカ（以下、シカ）による植栽木の食害が大きな課題となっている。本研究では、令和4年度から令和6年度までの調査結果を踏まえ、県内各地で落葉広葉樹林の下層植生への被害状況（シカの苗木への食害リスクの把握）を把握、併せて混交林誘導に関係する上層木の生育状況も把握する。そして、奈良県内の地域毎に適したシカの食害防止方法、混交林誘導に適した更新樹種の選定に際しての補助資料を作成する。

2. 材料と方法

令和7年度は広葉樹林の上層・下層植生調査を実施した。奈良県全域で約100地点の落葉広葉樹林またはアカマツ林を選定、そのうち令和7年度は27地点で調査を実施した。令和7年6月から10月の間に、樹高10m以上の落葉広葉樹林またはアカマツが混交する落葉広葉樹林において、藤木式下層植生衰退度調査（藤木，2012）により調査をおこなった。調査地で約20m四方を踏査し、シカの痕跡、亜高木層の衰退、低木層（地上高1～3m）および草本層（地上高1m以下）の植被率、ディアライン（シカの口が届く高さまで、枝葉がシカの食害を受け、一定の高さで横一線に剪定されたような景観）、高木性稚幼樹等を記録した。植被率はシカの不嗜好性植物を含む場合と含まない場合の両方を記録した。また、林冠層、亜高木層、低木層、草本層（実生、萌芽）の樹種を記録した。

3. 結果と考察

令和7年度調査を実施した27地点のうち、県北西部（香芝市、平群町等）の9地点ではシカの痕跡が確認されず、シカの食害による下層植生衰退度は無被害であった。一方で、県南部（五條市南部、吉野郡）の18地点では全ての調査地でシカの痕跡が確認され、下表のとおり半数以上の10地点が最も深刻レベルである衰退度4となっていた。

県北西部9地点ではディアラインがなかった一方で、県南部18地点のうち16地点で明瞭に、2地点で不明瞭であるがディアラインがみられた。

その他、27地点中15地点で、樹高30cm以上に成長した高木性稚樹が確認された。しかし、地域別では県北西部では9地点のうち半数以上の7地点で確認されたのに対し、県南部では18地点のうち8地点と半数以下での確認となり、シカの下層植生への食害の強さが窺える結果となった。

今後は、県東部を含めた調査地点での下層植生衰退度調査を実施するとともに、林内に自動撮影カメラを設置してニホンジカの出没頻度や食害行動の実態について調査を実施する。

表. 調査結果

地域	下層植生衰退度	令和7年度調査
県北西部 (香芝市、平群町等)	無被害	9地点
県南部 (五條市南部、吉野郡)	衰退度0	1地点
	衰退度1	4地点
	衰退度2	3地点
	衰退度4	10地点
調査地点数合計		27地点